

『解釈』表紙 文学碑めぐり 掲載リスト

1	石川啄木歌碑 「さいはての駅に下り立ち」 (釧路市 港文館)	61-1・2
2	山部赤人歌碑 「若の浦に潮満ち来れば」 (和歌山市)	61-3・4
3	齋藤茂吉歌碑 「おの津可羅寂し久も」 (箱根町)	61-5・6
4	芥川龍之介文学碑 「大川の水」 (東京都立両国高校)	61-7・8
5	松尾芭蕉句碑 「舳に添て行ばや末は小松川」 (大島稲荷神社・香取神社)	61-9・10
6	長塚節歌碑 「那珂川ニ網曳ク人ノ目モカレズ鮭ヲ待ツ如君待ツ我ハ」	61-11・12
7	横光利一 「夜の靴」 (鶴岡市)	62-1・2
8	万葉集・有間皇子歌碑 「家があれば……」	62-3・4
9	佐佐木信綱歌碑 「逝く秋の大和の國の薬師寺の塔の上なる一ひらの雲」	62-5・6
10	尾崎放哉句碑 「はるの山のうしろからけむりが出だした」 (鳥取市 興禅寺)	62-7・8
11	香川景樹歌碑 「敷島の哥の荒樸田あれにけりあらすきかへせ歌のあらす田」 (鳥取県立図書館 武家門脇)	62-9・10
12	順徳帝行宮御遺蹟碑 「風濤險惡 明春幸佐渡」 (長岡市寺泊)	62-11・12
13	森鷗外歌碑 「猿の來し官舎の裏の大杉は折れて迹なし常なき世なり」 (奈良公園)	63-1・2
14	有島武郎歌碑 「浜坂の遠き砂丘の中にしてさびし記我れを見いでけるかも」 (鳥取砂丘)	63-3・4
15	木下空太郎詩碑 「ふるき仲間も遠く去れば、また日頃顔合せねば、知らぬ者とか はりなきはかなさよ。春になれば 草の雨。三月、桜。四月、 すかんぼの花くれなゐ。また五月にはかきつばた。花とりどり、 人ちりぢりの眺め、窓の外の入日雲。」	63-5・6
16	鎌倉壽福寺の星野立子句碑・同寺所縁のその他著名人の墓などにも触れて	63-7・8
17	井上靖 「鬼ヶ城にて」	63-9・10
18	鎌倉市大町と埼玉県比企郡小川町 鎌倉の万葉学者仙覚の二つの碑 妙本寺「万葉集研究遺蹟碑」と小川町「仙覚律師顕彰碑」	63-11・12
19	童謡「かなりや」碑 (上野公園不忍池畔)	64-1・2
20	小牧市の松尾芭蕉句碑	64-3・4
21	「思うどち 遊び惚けぬ そのかみの 香貫我入道 みなとまち 夏は夏草 冬は冬 濤」 井上靖	64-5・6
22	石原和二郎歌碑 (旧花輪小学校記念館・群馬大学教育学部)	64-7・8
23	「からたちの花」の碑 (巣鴨教会)	64-9・10
24	大伴家持 「須賣呂伎能」歌碑 (黄金山神社)	64-11・12
25	源実朝歌碑 (鎌倉市/鎌倉国宝館・鎌倉商工会議所・鎌倉海浜公園)	65-1・2
26	勝田香月 「出船」歌碑 (能代港)	65-3・4
27	若山牧水歌碑 「幾山河こえさりゆかば寂しさのはてなむ國ぞけふも旅ゆく」	65-5・6
28	長塚節の歌碑 (岐阜県各務原市那加門前町三丁目/市民公園)	65-7・8
29	梶井基次郎 「城のある町にて」文学碑	65-9・10
30	前田夕暮歌碑 (神奈川県秦野市「おおね公園」)	65-11・12